
白と黒の疾走悪夢

灼熱の世界に放り込まれた氷の貴公子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白と黒の疾走悪夢

【Nコード】

N2585T

【作者名】

灼熱の世界に放り込まれた氷の貴公子

【あらすじ】

失敗作のリンと、レン。処分される予定だった二人は、どのようにすれば、助かるのか――

（前書き）

白黒病棟を愛しすぎて。

リンとレンは、運命をどう変えていくのか。

…ノイローゼになっちゃう。

「死体は交換される」

「死体は交換される」

「死体は交換される」

「死体は交換される」

*

僕と双子の姉、リンには片目づつなかった。

それ故、製造者の者に『欠陥品』とみなされ、処分される予定だった。

ただ、僕たちには、ミクから移植した目があった。
僕が、ミクを殺して移植させた。

でも、製造者の人間は僕たちを殺す予定らしい。

だから、リンと逃げる。

早く、処分される前に、早く、早く――！

「リン、出口は、

何処？」

「…其処」

！

そう言つてリンが指をさしたのは、
処分場所の、扉。

怖い。

『30度曲がつて全力疾走』

それだけの思いで、僕はその場から逃げだした。

＊

「…レン…？」

「リン、レンがどこに行ったか分かるか？」

「えと、こつち…」

「そうか。ありがとう」

「（…？様子が、変…。！！武器…?!）」

リンは、製造者の手に握られている物を見、悟った。

「（そう…レンは、処分されるの…だったら…!）」

リンは、ひと思いに包丁で製造者たちを次々と殺していった。

『壁は口を閉じて黙り込んだまま』

＊

「あ——あつた……！」

やっと、出口を見つけた。

そこに、MEIKOが来た。

「レン！久しぶりね」

「MEIKO：今、話してる時間は無いんだ。」

「そう…。一応、言っておくわ」

「…？」

「視界の端に、気を付けて。」

これが、血飛沫甘露の最期の言葉――

「！！！」

製造者の人間たちが、来た。

もう、駄目だ――

「レン！！！」

リンが、助けてくれた。

「――レン…」

そついうと、リンは自分の目を包丁で刺した。

「――、え…？」

そして、今度は僕に向かって――

＊

「レン…今、移植してあげるからね…！」

＊

僕は、晴れて完成品^{リン}となった。

失敗作となり、処分された。

「あっ……うあ……り、ん……！！……」

10

コチラソチラアチラ。

[illegible]

「死体は交換されると、貴方が申されましたのに。」

（後書き）

おかしい所が所々あるのは、作者が自己解釈物初めてだからです。
ホラーなら何回かあるんですがねえ。

御読了ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2585t/>

白と黒の疾走悪夢

2011年5月16日16時58分発行